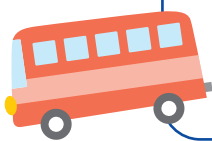


いきいきバスで暮らしも生きいき

足羽利生苑には地域密着型ユニットがあります。そこでは家庭的な環境の中、その人のニーズに合ったケアを行っています。日々の生活の中で入居者の方の尊重しつづつ、生活の中での楽しみを一緒につくっています。

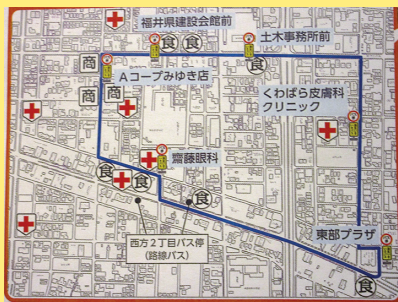


今回は「酒生いきいきバス」のバス停が足羽利生苑前に設置されたので、Mさんと一緒にバスで外出したご紹介していきます。

酒生いきいきバスって？

酒生いきいきバスは、お年寄りや子どもたちが気軽に利用できる地域の交通手段として、平成23年4月より運行開始となりました。現在は、酒生地区（高尾台）より東郷方面、福井市（東部プラザ）まで結んでいます。

平成27年10月1日、足羽利生苑前にバス停が設置されました。現在、同バス停には1日1回の停留。利用者の方の外出の支援や、地域の方との交流の場をつなぐ交通手段になっています。



買い物や通院に便利です！



バスで行こう

ユニットで生活していると、頻繁には外出する機会があまりありません。そのため、Mさんは日ごろから「外に出たい」という気持ちがあり、廊下を歩行器で歩き回ることが多いです。そこで職員間で話し合い、気分転換に外出しようという計画を立てました。



記念すべき乗車第1号のMさん



頼もしく走るいきいきバス

バスに乗って近くのスーパーである東部プラザ（ハニー食彩館）へ行き、買い物をすることにしました。

スーパーで 買い物

バスが来るとステップを自分の足で職員に支えられながらゆつくりと乗車されました。

乗っている最中は窓からの景色を見ながらどこに行くのか、今どのあたりなのかを気にされていました。バスのルートを説明すると「そんなところまで行けるんかー、便利になったのー」と笑顔で話されました。

バスを降り、スーパーに着くと「何もいらんのや」と言っていましたがお寿司売り場の前に止まり、値段などを見比べていました。店内を一周しているうちに「これ、いいのー」と惣菜やお菓子などの商品を手に取って見えていました。選んでいる姿はとても生きいきとしています。また、いつもは「できんで、やって」と言うことが多いMさんですが、会計の際

には自分で小銭入れからお金を出して支払われていました。



着いた!バンザーイ

これ
おいしそうやのー♪



外出の大切さ

利用者の方の気持ちを汲み外出することで、日々の暮らしにメリハリがきます。今回は、公共交通機関を利用して買い物をするということの良い気分転換になったようです。

ふだんの生活ではすることのない階段の昇降も、職員に支えられながらできました。また、自分で商品を選びお金を支払うということもできたので、自立支援に向けた取り組みのひとつとして、外出の機会をつくることは

とても大切だと感じました。また、社会とのつながりがもてることにより「次はこれがしたい」という意欲が湧き、生きがいにもつながっていきます。

バスの利用が身近になつたので、今後も外出する機会をつくれるよう職員間で協力し「また連れてつて」と言われるような、楽しい外出を計画していきます。



頑張ってステップを降りています!



地域の中にあるサービスセンターを足羽利生苑に取り入れる取り組みの一つとして「足羽利生苑に足を運ぶ交通機関がなく、地域とのつながりがもちにくい」という意見を受けて、バス停を設置する働きかけを行いました。

今後は利用者の方がこのバスを使って地域に出掛けられるように活用したいです。そして地域の方が足羽利生苑に足を運んでいただけるときつかけとなり、地域に開かれた施設になればと思います。

また定期的に行っているリハビリ教室や『ほっとカフェ足羽』というサロンも催していますので地域の方にバスを利用してお越しただけるとうれしいです。

足羽利生苑

副主任 西田勝俊